



【保存版】

＼税理士事務所スタッフ・税理士の／
年収事情を徹底解説

はじめに



税理士事務所での転職や就職を考える方々への参考情報として、今回は税理士事務所の年収事情に焦点を当て、解説していきます。

実際に税理士事務所で働く際には、年収だけでなく職場環境やキャリアプランも検討すべき重要な要素です。

税理士事務所スタッフの分類に基づき、所属に合わせた年収事情にも具体的に触れながら、キャリア形成において役立つ情報をお伝えします。

目次



- 税理士事務所スタッフの分類 ...4
- 税理士の分類 ...8
- 補助者の年収 ...12
- 担当者の年収 ...13
- 社員税理士の年収 ...14
- 開業税理士の年収 ...15
- 企業内税理士の年収 ...16
- 税理士の年収は今後も下がるのか ...17
- ミツカルにできること ...18

税理士事務所スタッフの分類

スタッフの分類は 大きく3つ

税理士事務所では、補助者、担当者、管理者といった3つのポジションが存在し、それぞれ異なる業務に従事しています。ここからは、各ポジションが果たす役割や担当する業務について詳しく紹介いたします。



税理士事務所スタッフの分類



補助者

税理士事務所で働く補助者は、主に税理士事務所の顧問先である企業や個人経営者から提供される資料を処理し、実際の申告書の作成に携わります。補助者は、資料の入力から始まり、それを丁寧にチェックし、最終的に申告書を作成する業務が主な仕事となります。一部の事務所では、補助者が申告書を作成し、担当者がそのチェックを行うケースもあります。

補助者は通常、顧問先の対応などを行いませんが、メールのやり取りや、資料収集の際に必要な文書でのやり取りは発生します。

税理士事務所スタッフの分類



担当者

担当者は税理士事務所で一番活躍されている方が多いポジションになります。月次の監査や決算対策、申告書の作成、補助者が作成した資料のチェックなど、広範囲な業務に携わります。

担当者の中には税務だけでなく、財務コンサルティングや融資・補助金の相談、税務署との立ち合いなど、多岐にわたる業務をこなします。また、一部の担当者は相続に関する相談やデューデリ（due diligence）なども行うことがあります。

税理士事務所スタッフの分類



管理者

この業界の場合は95%ぐらいがプレイングマネージャーとして活躍しています。通常、売上の規模が大きい企業や多忙な担当者の指導や、自身の部下の教育・評価、マネジメント業務に従事します。管理者は、組織全体の効率化や円滑な業務進行を確保するために、戦略的かつ戦術的な判断を下すことが求められます。

税理士事務所内でこれらの3つの角が連携し、各ポジションが適切に業務を遂行することで、クライアントに対して高品質なサービスを提供できる体制が築かれています。

税理士の分類

税理士の分類は 大きく3つ

税理士には、社員税理士、開業税理士、企業内税理士といった3つのタイプがあります。
ここからは、各ポジションが果たす役割や担当する業務について詳しく紹介いたします。



社員税理士



開業税理士



企業内税理士

税理士の分類



社員税理士

社員税理士

社員税理士は、税理士登録をし、特定の税理士法人や事務所に所属し、その事務所内で業務を行います。

通常、税理士法人では2名以上の税理士が必要なため、1名が代表先生として、他の税理士が社員として所属することが一般的です。ですので比較的役員クラスになっているケースが多いです。

社員税理士は税務知識が豊富なので、より高度な税務判断や実務のサポートを提供する役割を果たします。

税理士の分類



開業税理士

開業税理士

開業税理士は、独立して税理士事務所を経営する個人の税理士です。開業税理士は事務所の所長として自らの経営を行い、一般的には数名のスタッフを雇用します。

所長は税理士事務所の経営に携わりながら、クライアントへの税務サービスを提供します。開業税理士の事務所には、平均して4～6人のスタッフが所属しており、事業の規模により異なります。

税理士の分類



企業内税理士

近年では、税理士が開業するか、または社員税理士として事務所に所属するかの中間的な選択肢として、企業内税理士が増加しています。これは税理士資格を持ちながらも、企業において経理や財務部門の役職に就くケースです。

企業内税理士は通常の経理業務や財務コンサルティング、税務調査の立会い、監査への対応など、企業の内部で幅広い業務に携わりながらサラリーマンとして活動します。

補助者の年収

補助者の年収平均は、収300～400万程度です。一般的な企業の事務職と同程度、もしくは少し上回るくらいといわれています。

補助者は、通常は財務担当者や税理士をサポートする業務を担当します。一般的に、担当者ほど高度な専門知識が求められないため、収入は担当者よりも低いことがあります。



平均年収
300万円～400万円

一般的な企業の事務職と同程度
もしくは少し上回るくらい

担当者の年収

少し古いデータですが、税理士実態調査報告書によると、平均的な税理士事務所の年収は597万円とされています。税理士事務所の担当になると、顧問先から報酬をいただいて、それが自分の成績になり、そこに対して報酬をいただくことになります。

大体、1つの事務所の1人あたりの税理士の生産性は1,208万円とされています。そして、売上の30%が年収になるよう設定している事務所が多いです。また、仕事の経験年数や科目合格者であると、さらに年収は上がっていきます。



平均年収 597万円



-----1人あたりの売上-----

1人あたりの売上30%を
年収に設定している事務所が多い

出典元「第6回税理士実態調査報告書」

社員税理士の年収

社員税理士は、専門的知識と実務経験を兼ね備えた重要なポジションです。社員税理士の年収は一般的なスタッフよりも高く、特に大都市圏の大手事務所では800万円以上を稼ぐケースが多く見られます。

しかし、地方や中小規模の事務所では、この水準に達しないことも珍しくありません。社員税理士の年収は、業界全体の収益構造や市場動向に大きく左右されるため、これらの要因を踏まえたキャリアプランニングが重要です。



平均年収 800万円以上

（大都市圏の大手事務所の場合）

業界全体の収益構造や
市場動向に大きく左右される

出典元「第6回税理士実態調査報告書」

開業税理士の年収

開業税理士の年収は、業務量や事務所の規模、クライアントの質によって大きく変動します。平均的な年収は744万円程度ですが、成功すれば1億円を超えることもあります。

しかし、開業には高いリスクが伴い、十分な顧客基盤や業務の安定性を確保することが成功の鍵です。開業を目指す税理士には、業界の動向を把握し、リスク管理を徹底することが求められます。



平均年収 744万円

(業務量や事務所の規模などにより変動)

成功すれば1億円を超える

出典元「第6回税理士実態調査報告書」

企業内税理士の年収

企業内税理士の年収は勤めている会社の評価制度によって大きく変わりますが、平均すると約400万円前後です。しかし、これに加えて福利厚生や家賃補助などの利点があり、税理士事務所と比較して安定した職務環境を提供します。

企業内税理士は、税務業務のみならず、広範な財務知識を活かした業務を行い、組織内での多様なキャリアパスが可能です。



平均年収 400万円

福利厚生 家賃補助
など安定した職務環境がある

政府統計の総合窓口である「e-Stat」の
「令和3年賃金構造基本統計調査」と元に計算

税理士の年収は今後も下がるのか

税理士事務所内では2極化が進むと考えられます。現在、税理士業界の平均年齢は63歳であり、高齢化が進んでいます。したがって、今後は高齢の税理士が引退し、その後継者不足からくるM&A（合併・買収）が増えると予想されます。成長している事務所は従業員数も増え、結果として職員の年収も上昇します。

ただし、規模が変化していない事務所では成長が見込めず、従業員への還元も限られるため、年収の下落が懸念されています。転職・就職を検討する際には、過去数年間の事務所の規模変動を確認することが重要です。もし事務所が成長しているならば、職員の収入も増える可能性が高まります。逆に、規模変動が見込めない場合は、将来の収入増に懸念を抱く可能性があります。



ミツカルにできること



「自分にとって今の年収が本当に適正なのか」
「この先も今の事務所のままでいいのか」

本資料をお読みいただきそう感じられたあなたに

ミツカルは厳正なる審査を通過したあなたにぴったりの求人をご紹介します！

税理士法人専門の転職プラットフォーム「ミツカル」

ミツカルで最適な職場を見つけて働き方と人生に選択肢を増やしませんか？



ワークライフ
バランスの取れた
生活がしたい方



今よりも
年収を上げたい方



もっとスキルを
高めてキャリア
アップしたい方

経験豊富なキャリアアドバイザーが、あなたの転職を親身にサポートします。



代表 城之内 楊

これまで、3,000以上の税理士事務所のコンサルティングや士業向けのセミナーに複数登壇。さらにはスタートアップから上場企業まで外部顧問や役員としても活躍する。退職後、税理士業界を活性化するために、税理士事務所の採用支援サービスを展開する株式会社ミツカルを創業。年間2,400名以上の税理士事務所の求職者をサポート。

税理士法人専門の転職プラットフォーム「ミツカル」



ミツカルが選ばれる5つの理由

1

マッチ率の高い事務所から
オファーが届く

2

厳しい審査を通過した
事務所のみが登録

3

業界最大手
地域最大手・特化型事務所
100社以上が登録

4

好条件求人が豊富で
選択肢も幅広い

5

今の職場にバレずに
転職活動ができる

税理士法人専門の転職プラットフォーム「ミツカル」



ご登録後すぐにあなたにマッチした求人をお届けします

税理士法人専門の転職プラットフォーム
「ミツカル」のご登録はこちらから

＼登録は簡単30秒／



ここをクリック

OR



QRコードからもアクセスできます

ミツカルを利用した実際の転職者の声

個人事務所から特化型事務所へ転職



転職期間

1ヵ月

業界経験

5年

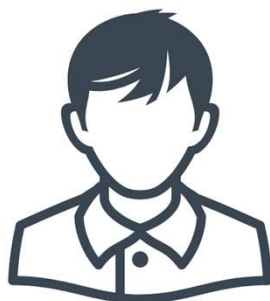
現在の収入

650万円

個人事務所で巡回担当として働いていましたが、訪問先の社長は零細や小規模ばかりでした。年収を上げるためには担当件数や規模感を増やす他なく、資料を期限通りに送ってすらこない企業を相手にしても将来性は無いなと感じていました。資産税にもともと興味がありチャレンジをしたいと思っていたのでミツカルに条件登録。都内の相続特化事務所からまさかのオファーがありました。担当した報酬に対してのインセンティブもよく転職してよかったと感じております。

ミツカルを利用した実際の転職者の声

5大都市から地元の大手事務所へ転職



転職期間

2ヵ月

業界経験

13年

現在の収入

700万円

大阪の中堅事務所でマネージャーとして働いていましたが、両親と子供の事を考え、地元に戻りました。正直年収は下がってますが、地方の生活水準では充分です。休日は家族で一緒に出かけて両親も孫に逢える頻度が増えて喜んでました、今の事務所は地方でも有名な事務所で地域で有名な企業も担当をさせていただいております。ミツカルは登録してすぐにオファーがあったので、登録期間が短くて担当の方もびっくりしてましたが、良いサービスだとは思います。

ミツカルを利用した実際の転職者の声

地方事務所から大手事務所へ転職



転職期間

2ヵ月

業界経験

9年

現在の収入

800万円

転職を決意したのは、将来のキャリアパスと待遇の不一致が理由でした。10年後の幹部ポストを見据えていましたが、幹部の待遇や内情を知るにつれ、責任は増える一方で給与がそれに見合っていないと感じたんです。そんな中、ミツカルさんと出会いました。最初に担当者とお話した時に、とても親切に話をしてくれて、その時点で今回の転職がうまくいくイメージを持つことができました！ミツカルのサービスは、これから転職を考える人にとって非常に価値のあるものだと思います。

ミツカルを利用した実際の転職者の声

地方事務所から大手事務所へ転職



転職期間

2カ月

業界経験

9年

現在の収入

780万円

今回ミツカルさんを利用して転職活動を行いました。カジュアル面談でお話した約8割の企業が私のイメージに合っていました。さらに、カジュアル面談は「うちの事務所に来てほしい」という前提のもと話が進むことが多く、通常の面接とは大きな違いを感じました。一時は進路に迷うこともありましたが、ミツカルのチームが他の企業を紹介してくれたので、私は常にポジティブな姿勢を維持することができました。最終的には、地方の中堅事務所から大手規模の事務所に転職し、新たなキャリアの道を歩み始めています。